洛星新聞

発行所 ヴイアートル学園
洛星中学校
編集 洛星中学校新聞部

洛星高校いよいよ開校

学校の方針と生徒の要望を聞く

一流大學入學へ万全
生徒の熱意に期待

学校

洛星高等学校の内容がどんなものになるかということは、三年生の間では切実な関心のまとになつている。そして、この問題はひとり三年生のみならず、全校生徒の関心事でもあるはずである。

そこでこれらの疑問に答えるために、新聞部では特にここに洛星高等学校の大綱について発表していただき、またさらにこの問題についての生徒の不安や希望や決意の声を集めてみた。

洛星高等学校における教育の基本方針が、ヴイアートル教育会の指示するカトリック精神に従つておこなわれることは中学校のばあいとなんらかわりはない。だから生徒は中学校からひきつづき六年間を通じて、知識的にも人格的にも真に有能な人間になるための教育がほどこされるわけである。

従つて、洛星高等学校の運営上のこまかい点はすべてこの基本方針によつておこなわれるが、すでに了解された部分についてお知らせすれば次のとおりである。

第一に、洛星高等学校の教科課程は普通課程のみとして、商業課程その他の実業課程はおかない。

第二に、授業については原則として他の学校でおこなつているような「選択制」を採用しない。だから学校はあらかじめ生徒にとつて必要と思われる教科を定めて、これを必修科目とする。すなわち国語科では国語、漢文。社会科では一般社会、世界史、日本史、人文地理。数学科では幾何、解析I。理科では物理、化学、生物。さらに保健体育、英語、家庭が必修科目である。

それからさらに、実業科では音楽と図画とのどちらか一方を選択することになつており、第二外国語としてフランス語を選択してもよい。なお、他の高等学校でおこなつている内容を二年間で終り、第三学年は総復習にあてる予定である。そしてこれらの授業を充実させるこころ、先生方の先生だけでなく、さらに数名の立派な先生方をお迎えすることになつている。

第三に、新たに他の中学校の卒業生から募集される約三十人は特別のクラスを作つて訓育される。

第四に、学費は

入学金 六〇〇〇円
（洛星中学校の卒業生は二〇〇〇円）
授業料 月額 一三〇〇円
校友会費 同 一〇〇円

制服については父兄の方々と相談のうえで決定することになつている。

なお高等学校教育の細目については現在研究中であるから、決定次第印刷物その他の方法でお知らせするはずであるから、諸君はそ

体育部予算

総額 九五八〇円

体育部の各部への予算配分は去る十二月十八日次の通り決定した

▽野球部……一八二〇円
▽テニス部……一八二〇円
▽ハンドボール部 一八〇〇円
▽陸上部……二三七〇円

予備校にはするな

我々の手で美しい傳統を

生徒

「洛星拾い」や「晩鐘」の絵でみなさんに親しみぶかいジャン・フランソワ・ミレーは一八一四年一〇月四日、フランス西北海岸にのぞむグリユシーという寒村の農家に生れました。大きくなつてからパリに出て絵の

羊飼いの少女
ミレー

勉強をし、貧困とたたかいながら彼はやがて彼でなければ誰にもかけないような個性のある絵をかくようになりました。「どんな小さな声でもよい。私は私の声で、私の歌をうたいたい」という意味のことを彼はいつていました。

この「羊飼いの少女」（一八六四年作）は素朴な村の娘が野の羊の前にたたずむ姿ですが、ここには優しくつつましい祈りの心がいかにも静かに、清く、しみわたつているではありませんか。

この絵は今、はるかに海をわたつて京都へ来ています。岡崎の美術館にルーヴル展をみる人はじつとこころを落着けて、この絵のしずかなふんいきにひたつてください。

中学120名・高校30名
本年の入試要領決る

本校では、中学校及び高等学校の昭和三十年度の入学試験調抜要項を次の様に決定した。

【中學校】

募集人員 第一学年約二〇〇名

志願資格 十三才までの小学校修業以上の男子

願書受付 昭和三十年一月十日から二月十二日まで（日曜祭日は除く）

出願手続
①入学願書、家庭調査書（用紙は本校から交付）料金二十円）
②考査手数料 一〇〇〇円
（願書提出の際納入のこと）

考査期日
口頭試問、人物考査は二月十四日から、二月二十二日までに行うが、各自の考査日は願書受理の際通知する。

体格検査は最寄の保健所で受け検査書を願書と共に提出の事。

【高等学校】

募集人員 三〇名（学級増加のため二千年度に限る）

志願資格 年令十六才までの中学校卒業以上の男子

願書受付 自一月十日、至二月九日

出願手続
①入学願書、家庭調査書、中学校内申書身体検査（用紙は本校より交付、料金三十円）
②受験料、一五〇〇円

試験科目及期日
数学・国語、昭和三十年二月十日（木）九時から十二時
理科・社会 昭和三十年二月十一日（金）九時から十二時
英語、昭和三十年二月十一日（金）自十三時至十四時
口答試問、昭和三十年二月十日（土）九時から十六時

合格者発表
中学校 昭和三十年二月廿六日
高等学校 同二月十五日
何れも十時に本校に掲示、本人にも通知する。

合格者心得
中学校合格者は昭和三十年三月一日、高等学校合格者 年二月十九日、何れも午後四時まで入学手続をすること、これしないものは入学許可を取消す

文化部予算

総額六三〇〇円

文化部では十二月十八日、一ケ月の予算を次の様に配分した

▽音楽部……二四〇〇円
▽演劇部……四〇〇円
▽文学部……五〇〇円
▽新聞部……三〇〇〇円

洛星高校カリキュラム

科目		学年 I	学年 II	学年 III
教科 国語	甲	3	3	3
	乙	2	2	2
	文	1	1	1
国語	漢	1	1	1
社会	一般社会	2	0	0
	世界史	2	2	2
	人文地理	1	2	2
	時事問題	0	2	2
	国史	1	2	2
数学	一般数学	0	0	0
	幾何	3	2	3
	解析 I	2（1学期）	0	3
	〃 II	4（3学期）	4	3
理科	物理	2	4	3
	化学	2	2	3
	生物	2	0	3
	地学	0	0	0
保健体育		3	3	3
外国語		6	6	6
芸能科	音楽	1	1	1
	図画工作	1	1	1
	書道	0	0	0
宗教		1	1	1
計		36	35	35

府立病院前
視力瞳（ドウ）メガネ店
京都市上京区河原町通広小路南
電話上③6867番
振替京都21651番
電車——府立病院前下車

京都府立医科大学眼科教室
京都大学医学部眼科教室
京都第二赤十字社病院眼科部
京都第二市立命館医務局眼科
指定眼鏡調製所

メガネ

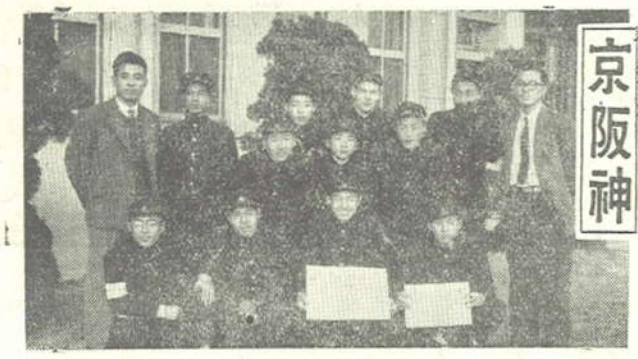
近畿 京阪神 ハンド・ボール部大活躍 優勝と三位

準決勝で濱寺に惜敗

光るGK野村・FW浪越

近畿

近畿中学校体育連盟、関西ハンドボール協会主催第四回近畿中学校ハンドボール大会は四日午前9・時より大阪府藤井寺球場において大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、兵庫県の各府県代表十五校の参加によつて行われ、京都府代表として参加した本校は四日午前十二時半からの一回戦滋賀県代表彦根西中学校を、同じく四日三時半からの第二回戦には奈良県代表都南中学校をそれぞれくだし一日十時半からの準決勝で大阪府代表浜寺中学校と対戦、夜半からの雨にコンディション悪く、どろんみれの熱戦のすえ惜しくもやぶれさつた。しかし同じ準決勝豊中第五中学校対学芸大学附属中学校の敗者である学大附中とともに三位決定戦行わずして三位に入賞と決定した。



活躍した我ハンドボールチーム＝前列左よりFW佐竹　後列左より小西先生
FB谷口・津田　GK野村・　HB林・FW三巻・浪越　HB豊嶋・大抜・FW金光
・中山　川島先生

本校メンバー

GK野村幸信
FB谷口・津田
HB大抜・林・豊嶋・中山
FW浪越・三巻・金光・佐竹・西
補　川島

▽一回戦

洛星中6（3−2、3−3）5彦根西中

経過　初春早々絶好のコンディションに恵まれ、晴れの京都、滋賀の代表として、檜舞台をふんだ両チーム、試合は終始接戦を呼び、緊迫したゲームを展開した。まず前半初頭、四分彦根西中のジャンプシュートに決められ火ぶたは切つて落された。その後試合はスピードにのり、速巧を武器とする両チームともに、互格に試合を運んだ。しかし、六分本校のCF三巻が、エリア前のシュートをコーナーに決めて以来、試合をもり返し、前半を3−2と一ゴールの差で後半を迎えたが、ゴール前の速巧と切り込みが不充分で十六Mフリースロー辺で行きづまり、唯むやみにボールを廻し、結局パックスのカットに会い、得点にならず、苦戦に陥入つた。一方彦根はさすが滋賀県の最強チームを誇るだけあつてFWの突込は強引で後半は四分、六分で相手にリードされ、一時は洛星の敗北かと思われたが後半六分又もやCF三巻のシュートでタイに持ちこみ、その後は、どうにか前半の一点を守り抜くことが出来6−5で彦根西中を破つた。

評　（ハンドボールコーチャー小西先生）苦戦の原因としては初の遠征試合でもあり、やや固くなつて、全体の動きがにぶくなり試合にあせりが見えていたことであろう。後半のラストで一点を守ぬくことが出来たのは、その責任と最後まで試合をすてなかつたファイトによるものであろう。

▽二回戦

洛星中15（9−1、6−3）4都南中

経過　都南の攻撃に始まつたが都南は本校パックをぬけずすぐ本校のFWの手にボールがわたり本校の攻撃になる。小がらな都南のパックを見事なパスできりぬけ、まず浪越のシュート成つて一点先取、その後三巻三本、浪越二本、佐竹二本、金光が一本ほうりとんで九点、都南の攻撃はフルバックの津田、谷口等の活やくによつてわずか一点におさえて前半を終了した。後半本校の攻撃に始まる。都南はオールメーバックで本校にいどみ、ゴール前ではしばしば混戦になる。三分三巻のセンターからのスピードあるシュートきまりまず一点、その後佐竹一本、金光一本、三巻一本、浪越二本投げこんで六点を上げる。対して都南は前半にくらべて精彩のない本校パックをぬいてよく三点をあげ後半6−3で終る結局15−4で洛星の勝

評　体に於いて一まわり小さい都南のパックスにつけこんだ作戦は、まさに図にあたり、試合は本校のペースに巻き込まれ、第一回戦にくらべて全く一方的な試合となつてしまつた。然し後半本校はややもすると守備陣に精彩を欠き又FWの雑なラインクロスに得然を逸したことはもつと慎重さを要する。だが、CF三巻、RI浪越LI金光、のコンビとするセンタースリーのスピードに乗つた速攻は、都南のパックス陣を左右にゆすり、特に浪越、三巻のGKの真正面から打ち込んだジャンプシュートはあざやかなものであつた。

△準決勝

浜寺中3（1−1、2−0）1洛星中

この日夜半から降りだした雨が試合前までやまず、静心荘に一泊して、意気新たに必勝の信念に燃えて立つ洛星ナインのペースにとつては、全く不運な雨であつた。

午前十時半試合は開始されたがグランドが悪くバウンドしない、両者ともどろまみれになつて戦つた。もう一歩というところで両チームとも得点出来ず混戦又混戦で1−1のまま前半を終了した。後半に入ると本校はボールのキャッチ悪く、エリア前での球さばきが不手際で、パスも足の速い浜寺ラインにカットされ、折角攻勢に出ている度々のチャンスの芽をつみ、度々相手の逆襲にピンチに追いこまれていた。この辺に試合の山がみられる。後半八分洛星のエリア前に得た浜寺中のフリースローは左のコーナーに決り、これに気をよくした浜寺中FWはHBを加えて八人攻撃に本校パックスをおびやかし、十七分またもやLIからフラフラと上つたシュートがGK野村の左コーナーに入り、ダメ押して一点を与えてしまつた。それに対して前半十三分、浜寺中エリア前の混戦からパスをうけた金光がリターンして自ら打つたシュートがGKの不意をつき右ゴールのバー一ぱいに決つたのがせめてものなぐさみであつた。

評　前半エリア前の混戦から金光がシュートした時のプレイはなかなかりつぱなものであつた。またこの試合、GK野村は味方のピカ一でよく相手のシュートを右に左に止めていたのはまれにみるよき女房であつた。浜寺のFWは一杯に開き、得意の武器とする、パックスの後にまわりこむウイングの切り込み戦法は洛星のデフェンスにはばまれたが、すべのボールを確実にキャッチし、ボールをキープして左右にまわし、機をみては突む戦法、またFWのきじめに最後までパックスの加勢にかえつてくる動きは多いに見習うべきものがあろう。

GK・主将　野村幸信

我チームは第一戦第二戦には勝つたが準決勝は悪コンディションとはいいながら3−1で破れた、実力はかわらないのになぜ破れたかここにふりかえつてみると我軍は「根性」がなさすぎた

小西先生

も云つておられたが、技術が五間、精神力（根性）が五割位で各試合に望まなければ勝てない。その点優勝した豊中はどちらもすぐれていた中学最後の大試合に望み、改めなければならぬ点を数多く学んだ。今後この点を生かし、もつと大きな試合に望む事を部員一同希望している。

「欠けていた精神力」

―準決勝を語る―

FW・C　三巻弘忠

この日きのうの快晴に比べ夜から雨が降り続き、グランドはほとんどボールがはねかえらないという悪コンデションであつたため試合がスムーズに進まず珍プレーの続出であつた。浜寺中は我チームの攻撃に対し、オールメンバックでしかも確実なワンツウワンで防えいした。浜寺のバックは小つぶでありながらよくわれわれのパスをカットしよいバックであつた。特にキーパーはうまく我々のシュートをよくとめていた。

後半2−0と点差をつけられ、ついに我チームは破れさつた。敗因はやはりパスのたくみさに一歩浜寺がまさつていたことであろう。又浜寺のバックは小つぶでありながらよくわれわれのパスをカットしよいバックであつた。特にキーパーはうまく我々のシュートにボールを浮すというしん重な試合運びで、ボールを確実にパス、キャッチしていた。又チームワークはよかつたが、シュート力がなく、前半我チームは悪実にFWが無つておつたので対にいくとめることが出来たが、

二つの人間

＝新たに洗禮を受けた諸君に＝

佐藤吉昭

新春に当り、私は先ず新に受洗せられた諸君の上に幸多かれと祈ります。その諸君達にとつて、この新春は人生の新らしき門出でもあるからです。

旧約聖書は人間を「神に似られたもの」と教えましたが、ギリシヤの哲人アリストテレスは、人間を「社会的動物」だと述べました。

古人の人間についての教えを大きく二つに分けるなら、個人に生き、神に迄近づかんとする精神的な人間と、大勢集つて社会を作り蟻のようにお互に持場を守つて分業して働く動物的な人間の二つに分けられるでしょう。そして、実は私達はこのどちらにも属しているのです。つまり一方だけではない。私達は神の言葉に従つて、魂に生きねばならない。と同時に義務を果し、不正、不和を取除いて弱者の社会を一層住みよい処にして行かねばならないのです。ところが人間はそそつかしいもので、常にどちらかを忘れたがる。近代の考え方では後の方、即ち人間を社会的動物とのみする事がとても流行していますつまり二本足で立たないで、地面の上に四つ足ではいなさいと云うのです。社の会不正を除こうと云う正しい考えから出発しながら盲的な人間でもある事をすつかり忘れてただ質上げ、ストライキ、社会の武力改革を願う人々。その反対に金もうけに没頭し、そのためには帝国主義戦争をもやらうと云う悪資本家。これは皆人間を社会的動物とのみ考える人々で、多かれ少かれ今の私達の考え方です。ところが時々とんでもない事が突発する。一年前私の家の前の川堤を一台のバスが走つていました。満らく乗客はもうけ話を考え、ストの行末を案じ、選挙を思い、夕食のおかずに頭を悩ましていた事でしょう。

ところが突然私の眼の前で二廻転して五米下の川床に落ちたのです二名死に多くの人々が傷つきました。この時、人々は社会的動物から切断られて、突然魂の人間に立戻されたのです。神の似姿たる人間像がこの割目から海面下の水山の巨体を突出して来たのです人々は最早社会でなく自分その人生を考え、理性で神を学び、自分の二つの姿をはつきり知つて新しき信仰によつて新しき人生の船路に旅立つた諸君、君達の決意こそ、このわづらわしき人生の旅路にあつて、誘惑は多くの自称賢人に通かにまさる、賢者の決意ではなかつたのでしようか。誠に良く生きる事は難しい。（第二学年一般討会担当）

本庄中（神戸）に大勝

波にのつたFW陣

三都市

京阪神三都市冬季体育大会ハンドボールの部は、昨年十二月十八日京都洛陽高校グラウンドで、京都市、大阪市、神戸市、の各市代表六校の参加によつて、市対抗の形で行われ、京都市代表として参加した本校は、神戸代表本庄中学を、又同じく京都市代表藤森中学は、大阪市代表に勝つたため京都は二勝して第一位となつた。

洛星中　11（6−1、5−2）3　本庄

試験中にて練習不足な洛星とはいえ、矢張り地元の興味もあり、前半から終始リード、試合を完全に終了してしまつた。

この日FWラインは、特前の好調の波にのり、前半二分、RI浪越のシュートで、先制点を挙げ、その後もCF三巻、LI金光のフオローを生かして、パスダツシュに成功し、タイミングをはずす好パスによつて完全にFB陣を割り中距離シュートを誘引に放つて、全く相手を寄せつけないものにしまつた。

評　（小西先生）試験中で練習をしていない洛星としては上出来であつた。全体に十六メートルフリースローライン際で両者がかたまり、得点とならなかつたがもつとウイングをフルに使えば、両校とも、得点出来たのではなかろうか、特に本庄は、ウイングをもつと活用すべきであろう。洛星にキツクが多かつたのは、パスゲームのハンドボールだけに注意を要し、日頃の腰の高い練習がわざわいしているのだろう。

FWの攻撃のチャンスを常につくるLH豊嶋の活躍は相手の待つところを突込み、カツトにあて、自ら攻撃陣に加わつていく当り、大会の華として観衆の注目をあびていた。

唯このテイームに難を云えば、調子のよい時とスランプの波の殆ずぎることで、最初のスタートにすぐその日の試合の勝負が分るというのは、結局ねばりのとぼしいことに因するのではないか。

謄写印刷

郡星は当店で
印刷いたしました

旭プリント社
京都市上京区小山東大野町二八
電話西陣④5724

美味・安價・清潔三拍子揃つた
パンの
洛星中学校生徒会指定店　クリロフ
上京区等持院西町　TEL④6614

駿々堂版
昭和三十年度高校入試
新傾向の全科
210円
株式会社　京都駿々堂
本店★　河原町六角下ル　電②348・2287
支店★　京都駅観光デパート内　電⑤4001